

# 令和6年度能登半島地震

～ 関東Bブロック職員派遣報告 ～



市川三郷町社会福祉協議会

佐野 泰史

# ブロック派遣とは

## 関東甲信越静ブロック災害時の相互支援に関する協定

ブロック管内で広域にわたる災害が起き、住民生活に甚大な被害が発生した場合、社協の専門性を発揮し、以下の活動を行う

- ① 都県指定都市社協職員の派遣
- ② 市町村社協職員の派遣
- ③ ボランティアの支援
- ④ 被災福祉施設等への支援
- ⑤ 必要な物品、資機材の提供、斡旋

今回は石川県から  
ブロックを超えた支援要請があり

関東Bブロックが  
災害ボランティアセンターの運営  
業務の支援にあたる

\* 関東Bブロック・・・神奈川、新潟、長野、山梨、横浜市、川崎市、相模原市、新潟市

# 応援派遣期間・クール

クール	派遣期間	派遣先	派遣者
第22クール	4月25日（木）から 5月1日（水）まで	能登町 災害ボランティア アセンダー 能登サテライト	6名 新潟・長野・山梨か ら2名ずつ

- ・ 関東Bブロックでは、中能登町、七尾市に職員派遣
- ・ 第22クールから能登町社協への派遣が始まる
- ・ 6月末までは、職員派遣の要請がある



# 被害状況

\* 内閣府防災情報HPから

## 人的被害（石川県）

死者	重症	軽傷
245人	320人	876人

- ・ 能登町は震度6強を観測、死者8人



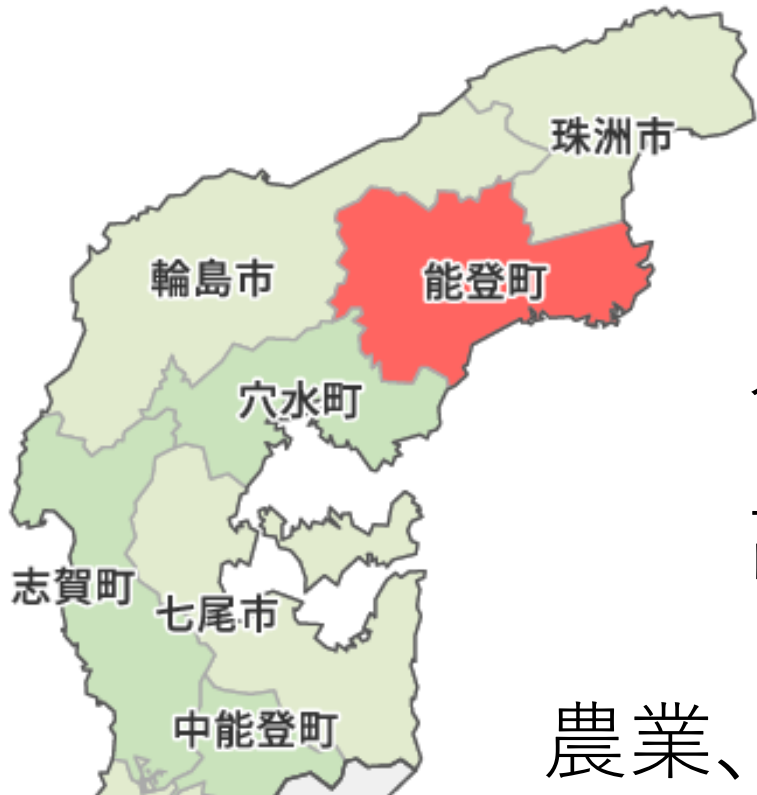
## 住家被害（石川県） \* 重複計上有り

全壊	半壊	一部破損	床上浸水	床下浸水
8,248棟	16,325棟	54,353棟	6棟	5棟

- ・ 住宅被害（家屋損壊）が目立つ



# 能登町について



2005年に3町  
(能都町・柳田村・内浦町) の合併

人口：**13,891人** R6年4月現在

高齢化率：**50.4%** R2年時点

農業、漁業が盛んな地域



# 能登町災害ボランティアセンター



内浦地区

本部・・・ニーズ受付

能都地区  
柳田地区

サテライト

内浦地区には津波被害の白丸地区  
能都、柳田地区は山間地が多い

関東Bブロック社協

本部からサテライトまでは  
車で約20分程度



# 能登町災害ボランティアセンター

- 1月6日にボランティアセンター開設  
(職員の安否・ライフラインの確認)
- 公民館エリア、民生委員に説明会  
(センターの周知・ニーズ把握)
- 1月26日からボランティアの受入れ  
(町民の方を限定・スタッフは現地社協職員のみ)
- 2月8日から県登録のボランティアの受入れ  
(サテライト開設・ボランティアバスのみ受入れ)



内浦本部



能都サテライト

# ニーズ等の状況

- 4月20日時点で約1,300件のニーズを受付  
(ニーズの50%は、能都サテライトの案件)

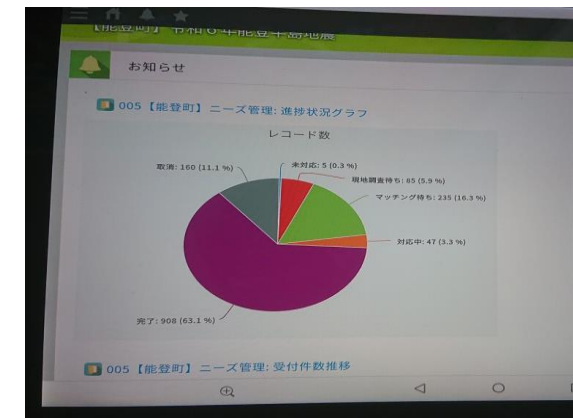


- 家財の運び出し、ガレキ等の撤去  
(重労働のニーズが多い)



- 情報は「キントーン」で一括管理  
(本部がニーズ受付・タブレットで情報共有)

- 6割が完了、マッチング待ち2割弱、現調待ち1割  
(サテライト開設・ボランティアバスのみ受入れ)





# ボランティアの現状

2022年3月末の全国社会福祉協議会報告書から  
能登半島地震は石川県集計（4月23日現在）

1995年	阪神大震災	137万7000人
2011年	東日本大震災	154万5000人
2016年	熊本地震	12万1000人
2024年	能登半島地震	7万921人

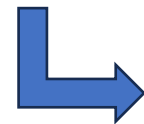
熊本地震では発生から  
4か月で11万人のボランティア

能登半島地震は・・・石川方式で

## 石川方式

- ① 希望者は石川県の専用サイトに登録
- ② 各市町側が被災者のニーズを集め、県に申請
- ③ 市町側から寄せられたニーズに基づき、県が被災地にボランティアを派遣

住民からのニーズが出发点！



ニーズを吸い上げる難しさがある



# 官製ボランティアでいいのか

- ・ 道路事情を考慮し、個人での被災地入り控える
- ・ 事故やケガの防止、丁寧なマッチング

⇒ ボラ数を制限することで現場の混乱を避けられる

一方で・・・

- ・ ボランティアの語源や原則（自主性に任せて良いのでは）
- ・ 希望者にいち早くボランティアの力を届けたい

⇒ 内浦本部（約30人）、能都サテライト（25人）  
柳田サテライト（25人）を上限にボランティアを受け入れていた



# ボランティアセンター（当日の流れ）

能都町サテライト（場所は社協の支所機能のある能登町山村開発センター）



- 8時00分 開設準備・全体ミーティング
- 9時00分 ボランティアバス到着  
全体オリエンテーション
- 9時30分 ボランティア送り出し
- 10時～ 明日のマッチング表作成  
現地調査、訪問日等の調整
- 15時00分 ボランティア終了
- 15時30分 ボランティアバス見送り  
キントーン入力作業  
片づけ等 17時終了

# ボランティアセンター（仕組み）

## 受付・名札作成



名札（シール）に日付と氏名を記入する。当日受付はQRコードから読み取る・・・社協公式LINEで町民ボランティア募集

# ボランティアセンター（仕組み）



## 事前オリエンテーション

活動時の注意事項等を説明する（全員一緒に説明を聞いてもらう）

# ボランティアセンター（仕組み）

## マッチング

No	地区	名前	人数	活動内容	実人数	台数	出発時間	帰着時間	完未
1279	宇出津	[REDACTED]	① 4	家財運び出し 仏壇の移動	4	2	9:10		
1361	鶴川	[REDACTED]	② 2	冷蔵庫の移動	2	1	9:10		
1350	宇出津	[REDACTED]	③ 7	家財整理、運び出し	7	2	9:10		
1301	瑞穂	[REDACTED]	2	ゴミ搬出	2	1	9:10		
1394	天波	[REDACTED]	④ 4	ゴミ、畳の撤去	4	1	9:10		
1360	藤波	[REDACTED]	⑤ 4	家財等の整理・搬出	4	2	8:50		
1234	宇出津	[REDACTED]	4	家財等の搬出					
1298	宇出津	[REDACTED]	4	家財等の搬出					
1235	宇出津	[REDACTED]	4	ゴミ搬出		2			

当日の朝、本部からボランティア人数の連絡が来る（一日20人から25人）  
 手上げ方式で、マッチング後、ふせん1枚を紹介表に貼りつける（紹介書は社協管理）、活動者には、依頼書兼報告書、現地調査書、地図のセットを渡す

# ボランティアセンター（仕組み）



送り出し時に、誰が、どの車に載ったのか把握するため、ふせんに名前と携帯番号を記入してもらい鍵を渡す（車の台数は軽トラ8台程度）

# ボランティアセンター（仕組み）



## 送り出し・資機材貸出

人手不足から送り出しと資機材の説明をセットで行う  
備品管理表等はなし。それぞれが必要な資機材を持っていく



# ボランティアセンター（仕組み）



## 活動報告

職員が資機材返却と報告書記入についてセットで説明を行う  
災害ゴミの受入れは15時まで、残った際は、翌日の活動者が捨てる

# ボランティアセンター業務を通して

## マッチングの難しさ

- ・ 当日まで年齢、男女比不明、車の運転の可否（MT5台・AT3台）
- ・ 予想活動時間（一日or半日）の見立て、終了者へのニーズ紹介
- ・ 明日のマッチングボードの作成      ・ かくし玉の用意

## デジタルの活用

- ・ 事前受付、ボランティア依頼先までのルート、すべてQRコードを活用  
（スマホを持っていない方は、紙ベースで記入）
- ・ キントーンでデータ分析可能

# ボランティアセンター業務を通して

## 情報の一元化の重要性

- ・はじめは、一人ボラセン状態・・・
- ・誰が、どこの現地調査に行った？内容は？
- ・各班ごとのミーティングが必要

キントーンで管理しているが、情報のバラツキ有り

## 現地調査、活動報告から

- ・現地調査の重要性（ニーズの見立て）
- ・活動報告時、終了 or 継続の確認徹底（継続の際は、人数、予想時間の確認を）

日付	4/30	スタッフ担当
能登町社協	船本 笹田	大島 スケジュール
本部統括	公治 / 藤	
オリエンテーション	雨宮、田中、桑原	
ローラー班 (神野)	内山 / 北 090-467-5549 太田 / 長津 090-2160-6552	
現地班	北 / 山本 佐野、雨宮、小澤	
事務局 (明日の調整)	桑原、田中 / 鈴木	

One Team  
4/30本日のリスト  
・時計・627

# 現地調査を通して

## 災害ゴミ？家庭ゴミ？

- ・ 震災により家庭で使えなくなった家財等
  - ・ 本、衣類、蛍光灯などの一般ゴミはNG
- ⇒ 区別が難しい・・・



## 一般ボランティアの出来る範囲とは？

- ・ 一般系ニーズ（時間をかけても一人出来る活動）
- ・ 技術系ニーズ（ブロック塀の撤去など）

⇒ 実際は・・・



# 現地調査を通して

## 一般ボランティアの出来る範囲とは？

- 原則、赤紙、全壊判定の自宅への活動NG  
(屋外の安全なスペースでの活動のみOK)
- 一般V対応不可の場合は技術系Vに依頼  
(双方が役割分担し、赤紙等の家に一般V入ることも)
- 社協職員の見立てのみでは、判断つかない
- Vを依頼する側も・・・あなたに出来ますか



# 技術系ボランティア

## OPEN JAPAN (オープンジャパン)

- 上記団体が能都サテライトに寄せられたニーズに対応していた
- ブロック塀の撤去、解体を伴う家財への対応や運び出しなど
- ニーズの半数近くが技術系Vの案件
- 内浦地区には、「災害NGO結」がサポート





# ローラー活動（神野地区）を通して

- ・ 曾又エリアを中心にチラシをポスティング
- ・ 区長さんの妻に会い、各世帯にチラシ配布（許可）

## 住民の声

- ・ ボラセン?? 社協?? 本当に安心できるの？
  - ・ 外部の人を自宅に入れたくない・・・
- 
- ・ ボランティアの押し売りになる・・・
  - ・ ローラーも狙いを決めていくこと大事
  - ・ 現地の人々が、同行してくれると安心感





# コミュニティマッチング

- より効率よく、現地調査、マッチングを行い、地区単位でボランティアを依頼し、活動につなげる
- 能都エリアの宮地地区で4月頃に実施
- 区長さんと連携し、一斉にローラー（ニーズの掘り起こし）を行い30件のニーズが挙がる。日時を指定し、数十名のボランティアが活動に入る



**平時からの  
信頼感**

- 住民の行政、社協に対する信頼感
- 住民の区長さんへの信頼  
区長さんの熱意と行動力



# 今回の派遣で感じたこと

## ① 受援体制の構築

(災害支援のNPO、NGO、生協、赤十字、職員派遣等)

## ② 活動期から復興期へフェーズ変わる

(ボラニーズだけではない、生活相談がある)

- ⇒ 被災者中心、協働、地元主体の災害Vの3原則
- ⇒ **個人や地域が立ち上がり、個人の生活再建、地域の再生に向けて最終ラインとなる存在が行政や社協**
- ⇒ **地域再生の核となる人や団体、どのように地域に働きかけるのか検討しておく**



# 今回の派遣で感じたこと

## ③ 情報の正確性、一元化

公費解体・・・原則家財は、持ち主が撤去する

⇒ ただし、危険な家は何もしなくてよい  
エアコン、襖、畳、照明器具、洗面台等は  
撤去しなくてよい

### 避難所からの声

・ 何度も同じ話をして疲れてしまう・・・

⇒ **機関や団体同士がつながっていないから起こること**



# 今回の派遣で感じたこと

災害VCの運営

**被災地の社協と住民が主体となること**  
**行政、企業、災害支援の団体等との連携が不可欠**  
⇒ 運営から復興までを  
意識した取り組み（平時から）

市川三郷町  
災害VC運営協力員連絡会

住民と社協  
住民と住民をつなぐ役割



ご視聴ありがとうございました  
～よろしくお願ひします～

